

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年6月7日(2007.6.7)

【公表番号】特表2006-528196(P2006-528196A)

【公表日】平成18年12月14日(2006.12.14)

【年通号数】公開・登録公報2006-049

【出願番号】特願2006-521221(P2006-521221)

【国際特許分類】

C 07 D 213/81 (2006.01)
A 61 K 31/4409 (2006.01)
A 61 P 43/00 (2006.01)
A 61 P 35/00 (2006.01)
A 61 P 27/02 (2006.01)
A 61 P 29/00 (2006.01)
A 61 P 19/02 (2006.01)
A 61 P 17/06 (2006.01)
A 61 P 9/08 (2006.01)
A 61 P 17/00 (2006.01)
A 61 P 31/04 (2006.01)
A 61 P 35/04 (2006.01)
A 61 P 1/02 (2006.01)
A 61 P 13/12 (2006.01)
A 61 P 9/10 (2006.01)
A 61 P 9/00 (2006.01)
A 61 P 15/00 (2006.01)
A 61 P 19/08 (2006.01)
A 61 P 19/10 (2006.01)
A 61 P 1/00 (2006.01)
A 61 P 11/06 (2006.01)
A 61 P 11/00 (2006.01)
A 61 P 37/08 (2006.01)
A 61 P 1/16 (2006.01)
A 61 P 33/06 (2006.01)
A 61 P 3/10 (2006.01)
A 61 P 9/04 (2006.01)
A 61 P 25/28 (2006.01)
A 61 P 25/00 (2006.01)
A 61 P 25/02 (2006.01)
A 61 P 1/18 (2006.01)
A 61 P 17/02 (2006.01)
A 61 P 19/00 (2006.01)
A 61 P 37/02 (2006.01)
A 61 P 37/06 (2006.01)
A 61 P 31/06 (2006.01)
A 61 P 1/04 (2006.01)
A 61 P 33/02 (2006.01)
A 61 P 31/20 (2006.01)
A 61 P 31/16 (2006.01)
A 61 P 31/18 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 D	213/81	C S P
A 6 1 K	31/4409	
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	27/02	
A 6 1 P	29/00	1 0 1
A 6 1 P	19/02	
A 6 1 P	17/06	
A 6 1 P	9/08	
A 6 1 P	17/00	
A 6 1 P	31/04	
A 6 1 P	35/04	
A 6 1 P	1/02	
A 6 1 P	13/12	
A 6 1 P	9/10	1 0 1
A 6 1 P	9/10	1 0 3
A 6 1 P	9/00	
A 6 1 P	15/00	
A 6 1 P	19/08	
A 6 1 P	19/10	
A 6 1 P	29/00	
A 6 1 P	1/00	
A 6 1 P	11/06	
A 6 1 P	11/00	
A 6 1 P	37/08	
A 6 1 P	1/16	
A 6 1 P	33/06	
A 6 1 P	3/10	
A 6 1 P	9/10	
A 6 1 P	9/04	
A 6 1 P	25/28	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	25/02	
A 6 1 P	1/18	
A 6 1 P	17/02	
A 6 1 P	19/00	
A 6 1 P	37/02	
A 6 1 P	37/06	
A 6 1 P	31/06	
A 6 1 P	1/04	
A 6 1 P	33/02	
A 6 1 P	31/20	
A 6 1 P	31/16	
A 6 1 P	31/18	

【手続補正書】

【提出日】平成19年4月9日(2007.4.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

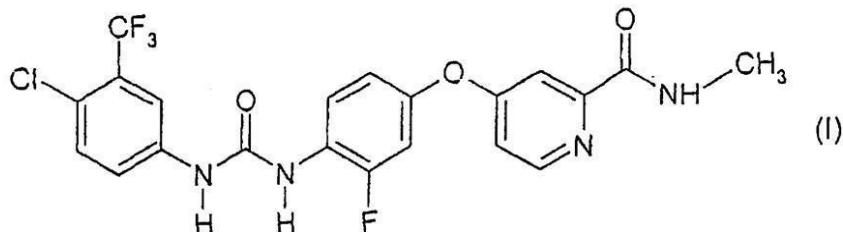
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記式(I)の化合物、またはその塩、そのプロドラッグ、その代謝産物またはその単離された立体異性体。

【化1】



【請求項 2】

a) 塩酸、臭化水素酸、硫酸、リン酸、メタンスルホン酸、トリフロロメタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸(トシレート塩)、1-ナフタレンスルホン酸、2-ナフタレンスルホン酸、酢酸、トリフロロ酢酸、リンゴ酸、酒石酸、クエン酸、乳酸、シュウ酸、コハク酸、フマル酸、マレイイン酸、安息香酸、サリチル酸、フェニル酢酸、またはマンデル酸である有機酸または無機酸の塩基塩；または

b) アルカリ金属カチオン、アルカリ土類金属カチオン、アンモニウムカチオン、脂肪族置換アンモニウムカチオン、または芳香族置換アンモニウムカチオンを含有する有機または無機塩基の酸塩；

である請求項1の化合物の薬学的に許容し得る塩。

【請求項 3】

4 - { 4 - [3 - (4 - クロロ - 3 - トリフルオロメチルフェニル) - ウレイド] - 3 - フルオロフェノキシ } ピリジン - 2 - カルボン酸メチルアミド、またはその塩である化合物。

【請求項 4】

a) 塩酸、臭化水素酸、硫酸、リン酸、メタンスルホン酸、トリフロロメタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸、p-トルエンスルホン酸(トシレート塩)、1-ナフタレンスルホン酸、2-ナフタレンスルホン酸、酢酸、トリフロロ酢酸、リンゴ酸、酒石酸、クエン酸、乳酸、シュウ酸、コハク酸、フマル酸、マレイイン酸、安息香酸、サリチル酸、フェニル酢酸、またはマンデル酸である有機酸または無機酸の塩基塩；または

b) アルカリ金属カチオン、アルカリ土類金属カチオン、アンモニウムカチオン、脂肪族置換アンモニウムカチオン、または芳香族置換アンモニウムカチオンを含有する有機または無機塩基の酸塩；

である請求項3の化合物の薬学的に許容し得る塩。

【請求項 5】

N - (4 - クロロ - 3 - (トリフルオロメチル) フェニル) - N' - 2 - フルオロ - (4 - (2 - N - メチルカルバモイル) - 4 - ピリジルオキシ) フェニル) 尿素の塩酸塩、ベンゼンスルホン酸塩、またはメタンスルホン酸塩である化合物。

【請求項 6】

請求項1の化合物と、生理学的に許容し得る担体を含んでいる薬剤組成物。

【請求項 7】

請求項3の化合物と、生理学的に許容し得る担体を含んでいる薬剤組成物。

【請求項 8】

請求項 1 の化合物および生理学的に許容し得る担体を含んでいる、タンパクキナーゼ信号形質導入経路の異常に関連した、タンパクキナーゼによって調節されるヒトまたは他の哺乳類における病気の処置のための薬剤組成物。

【請求項 9】

請求項 1 の化合物および生理学的に許容し得る担体を含んでいる、高増殖障害の処置のための薬剤組成物。

【請求項 10】

請求項 1 の化合物および生理学的に許容し得る担体を含んでいる、癌細胞成長の処置のための薬剤組成物。

【請求項 11】

N - (4 - クロロ - 3 - (トリフルオロメチル)フェニル) - N' - 3 - フルオロ - (4 - (2 - (N - メチルカルバモイル) - 4 - ピリジルオキシ)フェニル尿素の薬学的に許容し得る塩と、生理学的に許容し得る担体を含んでいる、薬剤組成物。

【請求項 12】

請求項 3 の化合物の自然に発生する代謝産物である化合物。

【請求項 13】

代謝メカニズム部位は、二つの尿素窒素原子のどちらか一つ、またはピリジン窒素原子、またはメチルアミド官能基、またはそれらの任意の結合である請求項 12 の化合物。

【請求項 14】

どちらの尿素窒素がヒドロキシリル基を担持するか、および / またはピリジン窒素原子が酸化されるか、および / またはアミド官能基が脱メチル化された請求項 12 の化合物。

【請求項 15】

4 - { 4 - [3 - (4 - クロロ - 3 - トリフロロメチルフェニル) ウレイド] - 3 - フロロフェノキシ } ピリジン - 2 - カルボン酸アミド ;
4 - { 4 - [3 - (4 - クロロ - 3 - トリフロロメチルフェニル) ウレイド] - 3 - フロロフェノキシ } - 1 - ヒドロキシピリジン - 2 - カルボン酸メチルアミド ; または
4 - { 4 - [3 - (4 - クロロ - 3 - トリフロロメチルフェニル) ウレイド] - 3 - フロロフェノキシ } - 1 - ヒドロキシピリジン - 2 - カルボン酸アミド ;
から選ばれた請求項 12 の化合物。